

医薬保健学総合研究科 薬学専攻

【授与する学位】博士（薬学）

大学（大学院）の目的
<p>金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p>

学類（研究科）の教育研究上の目的
<p>医薬保健学総合研究科は、医学、薬学及び保健学の教育、研究及び診療を通して、地域貢献、世界への情報発信並びに優秀な高度医療人、研究者及び専門的職業人を養成及び輩出することを目的とする。</p> <p>博士課程は、世界水準の研究を展開出来る拠点形成を行い、生命医学の各分野において、高い識見と世界的な広い視野で活躍し、斯界のリーダーとなる研究者及び医療人を養成することを目的とする。</p> <p>薬学専攻は、薬剤師および薬学のための教育・研究のリーダーとして、高度な医療薬学関連の専門知識、実践的な活動能力及び優れた学術的研究能力を有した人材を養成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
<p>【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</p> <p>本課程では、医療人として必要であり高度な薬学分野の講義を受講するとともに、最新の医療薬学関連研究に取り組むことにより、高度な専門性と優れた研究能力ならびに国際的視野を有する人材を育成することを目的としている。</p> <p>必要な研究指導を受け、主に薬学研究分野ならびに薬学関連科目を履修して所定単位数以上を修得し、英語能力試験において所定の基準を満たすことが求められる。また、研究成果が審査付きの学術誌に公表されることが求められる。研究成果を記述した学位論文の作成と口頭発表・討論により、その内容が審査され、審査に合格した学生に、博士（薬学）を授与する。</p>	<p>【教育課程編成に関する基本的考え方】</p> <p>本課程では、薬学研究分野ならびに薬学関連科目のみならず薬学と深く関連する最新の医学系学問、そして専門英語をより幅広く学ぶことを可能とし、先進的薬物療法に資する医療薬学を統合した教育・研究に資するカリキュラム構成を採用している。</p>	<p>【入学受入れに関する基本的考え方（前文）】</p> <p>本課程では、薬学を中核に据えた医療系学問分野における最先端の知識、医療人としての実践的な研究能力、および高い倫理観と国際的視野の醸成を目的とします。</p>
<p>【学生が身に付けるべき資質・能力】</p> <p>(1) 医療人かつ薬学研究者として必要な、高い倫理観と強い責任感、医療薬学分野における高度な専門的知識と幅広い見識、研究能力を身に付けている。</p> <p>(2) 国際社会で活躍できる情報収集・発信能力とコミュニケーション能力、国際感覚及び英語能力を身に付けている。</p> <p>(3) 医療薬学分野における最新の薬学研究を遂行し、課題発見から課題解決に向けた薬学研究を指導的立場で遂行することができる。</p>	<p>【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 自立した研究者として指導的立場で研究活動を行うために必要な、倫理観、責任感、最先端の専門知識と幅広い見識を修得する。</p> <p>(2) 国際社会で活躍できる専門英語力を修得し、情報収集・発信能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力を修得する。</p> <p>(3) 最先端の研究活動を通して、文献読解や説明能力、薬学的立場から課題設定から課題解決に向けた研究能力と指導能力を修得する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 研究者として倫理観を修得するため、「次世代研究者倫理」を配置している。薬学と関連する最新の医学系学問をより幅広く学ぶ「初期総合カリキュラム」、薬学系の教員による専攻科目を用意し、キャリアパスを考慮した最先端の知識や臨床現場での実践的な活動および学術的な知識や研究能力を体系的に修得する「薬学専攻選択科目」を配置している。</p> <p>(2) 国際社会で活躍できる専門英語力を修得するため、「初期総合カリキュラム（基礎系教育セミナー1、2）」、「国際研究実践」を開講している。</p> <p>(3) 最先端の研究活動を通して、文献読解や説明能力、研究能力を修得するための研究室セミナー・カンファレンスとして「研究分野別特論」、学位申請のための論文作成を目的とする「薬学特別研究」、並びに学会発表等について実践的な演習を行う「薬学特別演習」を配置している。</p>	<p>【求める人材】</p> <p>薬学・医学・保健学という三つの医療系学問分野が横断的に連携した本研究科に特有の学際的環境の中で、基礎薬学から医療薬学にわたる幅広い分野での教育を通して、高い専門性を有する薬学教育・薬学研究のリーダー、自然科学の素養と学術的に優れた研究能力を兼ね備えた医療人を志す人。具体的には、臨床現場において指導的役割を果たす薬剤師、医療薬学教育・研究をリードする薬系大学教員、医療・厚生・薬事・環境等の行政担当者、新薬開発や臨床試験等に携わる研究者など、高度に専門的な業務に従事し、その第一線で活躍を目指す人。</p>
	<p>【学修成果の評価】</p> <p>(1) 学修成果の評価基準・方法は各開講科目のシラバスに示している。</p> <p>(2) ディプロマポリシーに掲げる3つの資質・能力と学修成果の総合的な評価は、研究成果が審査付きの学術誌に公表され、研究成果を記述した学位論文を作成し、学位論文に関する口頭発表・討論の審査により実施する。</p>	<p>【選抜の基本方針】</p> <p>入学選抜の基本方針としては、一定レベル以上の学力（専攻学術および英語）を有し、これまでに行った研究課題に対する理解と熱意、さらに将来、上記の分野で活躍することに強い意欲をもっていることを重視する。選抜は、基礎学力、英語能力、論理的思考力、研究課題の理解力等を総合して判定する。</p>
		<p>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</p>